

第 107 号
 発行者
 退職校長会石川支部
 西牧庸一

喜寿に想う



支部長
西牧庸一

子どもの頃老人というと、

自分とはかなりかけ離れてい
る年齢の方々と思っていまし
たが、あつという間に自分が
その年齢になりました。過日、
喜寿を迎えて、寿詞をいただ
き感謝しています。

昔は短命だったので。七十

七歳という年齢を迎えるのは
喜ばしかったでしょう。現
在は医療の進歩のおかげで、
人生百年の時代に入りました。
私もここからまた気持ち新た
に人生後半の自分を考えてい
きたいです。でも今後心身共
に健やかに老いていけるとは
限りません。身体の衰え、精
神状態、家族の問題等いろい
ろなものを抱えていくことで
しょう。

まわりに目を向けると、こ

の十年間、今まで味わわなかつ
た歴史に直面しています。東
日本大震災、原発、水害、コ
ロナ禍、ウクライナ問題、強
烈で悲惨な状況が続いてきま
した。今後これらに加えて、
気候問題等悩ましいことが続
くと思います。

そしてこれまで何気ない日
常が、当たり前のことではな
かったのだと今思い知らされ
ました。またコロナ禍でのコ
ミュニケーションの制限によ
り、人とのつながりの重要性
にも気づかされました。

今後の自分や世界の不安等
を考えると、身動きが取れな
い状態となりますが、こうし
た問題を、ずっと心配ばかり
したくありません。私は困難
に直面した時、その都度一つ
一つに向き合っただけでいい
うと思えます。「前後際断」
過去を引きずらず、未来を憂
えず、今を、今日を精一杯大
事にすることです。今後はこ
れを信条に生きていこうと思っ
ています。

今年度の活動について

事務局長 矢吹伸一

令和四年三月時、新型コロナ
ナ感染状況は国内六万人を超
え、県内では六百人弱の数と
なり、石川郡内各町村の幼児
施設や義務系学校及び高齢者
施設でのクラスター発生が報
告されていきました。そのよう
な状況下で実施された支部役
員会においては、四年度総会
の開催を望む意見は皆無であ
り、三年続きで総会を中止せ
ざるを得ませんでした。支部
役員についても、支部長はじ
め副支部長や理事・幹事が改
選になるなど、会員みなさん
の前で各種表彰者のお祝いや
新入会員も含めた顔見せ、ご
挨拶ができずにいる現状をと
ても残念に思っております。
四月十七日付けで発送いたし
ました、総会要項、会員名簿
を持つて、令和四年度の活動
及び規約改正や役員承認と
させていただきますので、ご
了承ください。

今年度の支部の各種事業に
ついてお知らせいたします。
総会中止に伴って「米寿」
「喜寿」「金婚・役員退任によ
る感謝状」「叙勲受章者」に



八月には、事務局役員によ
る石川地方五町村訪問を実施
し、町村長・教育長に対し、
本県教育の復興・充実と会員
の生活の再建・安定のための
諸制度充実と整備実施を要望
してまいります。特に参議院
議員選挙に関わって、政権担
当議員から「消費税減税なら
年金三割カットも視野に…」
などのマスクミ情報流れま
した。高齢者の生活安定が脅
かされない布石活動が欠かせ

ないと痛感しております。
現職校長との交流促進につ
いては、八月の合同研修会は
コロナ禍の現状、中止とさせ
ていただきます。十一月実施
予定のゴルフクラブ主催の交
流コンペぐらいは実施できる
状況になっていればと願うば
かりです。

退職公務員連盟との協賛事
業である高齢者施設でのボラ
ンティア奉仕作業は、六月の
第一回目を中止し、九月実施
の第二回目を現在検討中です。

各委員会の活動ですが、履
歴書・功績調書預託委員会か
らは新入会員を中心に調書作
成と提出依頼が出されていま
すので、早めの作成・提出を
お願いいたします。旅行委員
会はバスでの研修という実施
形態から今年度も実施を見送
ることとなりましたので、ご理
解願います。広報委員会は例
年通り、年二回の発行を予定
しております。

六月下旬、新型コロナ感染
者数は全国で一人を切り、
県内も五十人と激減しました。
子どもたちの生活も脱マスク
生活へと改善してきています。
支部会員六十五名の皆様の益々
のご健勝とご活躍を心からお
祈り申し上げます。

祝米寿



祓川 傳次

五年間を会計事務所にて税務事務として白河市で過ごしたが教師は人間と言う最高のすばらしい、しかも未来を背負う生きた児童生徒を育成する創造的な仕事であると確信して、教諭を選んだ事の喜びと責任をもって教育にあたった。

この度退職校長会石川支部並びに退公連石川支部米寿を祝つての寿詞をいただいたので、これを機に上寿を目指して頑張つていきたいと心を新たにしました。

好き、嫌いなくなんでも食べる。

身体を適度に動かす。

食事の管理をする。

まずは実行する。



祝喜寿



蛭田 重経

今も自分の足で歩けることが何て幸せなことか。人生は悲喜交々の連続で、東日本大震災、原子力発電所の爆発、新型コロナウイルス感染症拡大等、生きることの意味を深く考えさせられました。

思えば六十歳代最後の大晦日、足腰が激しい痛さに襲われ、十メートル位しか歩けず腰を下ろして休むと痛さが治まるという繰返し。病院は休みで痛さを我慢しながら寝正月。時の長さを嫌と言う程味わい、診察してもらえた時の気持ちには格別でした。腰部脊柱管狭窄症との診断で、赤外線照射と薬の服用、ストレッチ等を主とした治療をしていくとの医師の言葉。それを根気よく継続し、奇跡的にも普通に歩けるまでに回復しました。その裏には医師を信頼した治療の専念、絶対治すという自分の気力、妻の全面的な支援が一体となって働き、大きな力を得たと思われま

す。ただ感謝するのみです。感謝

祝喜寿



水野 岩雄

退職しての十二年間は、石川・平田の教育委員会で非常勤の指導主事等をさせていただき、学校現場で授業に関わったり、指導資料等を作成したりした。とても遣り甲斐を感じた。吾妻幹廣先生には心から感謝している。また、県教委の理科サポート員になり、県中・県南の延べ二十数校で年間一〇〇コマ程度の理科授業を行い、理科教師の一人として十分満足した。

退職と同時に父が遺した畑で農業も始めた。農業関係の本を見ながら、時には他人に笑われながら試行錯誤の連続である。年数的にはもう中堅どころではあるが、生産量・品質は自然に影響されるので、毎年が一年生の気持ちで取り組んでいる。収穫した米は米作を維持できる程度販売し、残りの米と野菜は親族に配っている。従って確定申告では毎年赤字である。傘寿まではやり遂げ、その後はクルーズ船で世界一周するのが夢である。

祝喜寿・金婚



矢吹富美子

この度、奇しくも喜寿と金婚の受賞をいただきました。恐縮しております。月日の経つのは早いもので夢中で毎日を通り過ぎてきたことが、喜寿を迎え、又縁あつて金婚となりましたこと、本当に嬉しく思っております。

生まれた年は終戦の年で、戦後は私の年齢と同じなのです。私の幼児期は食糧難で、育てるのに苦労した話を親から聞いております。元気で喜寿を迎えることができたこと、を不思議にさえ思えます。その上金婚も一緒であったことは自分でも考えていませんでした。福島県に来る時、親に三年で戻つてくると話したはずだったのに福島の地に落ちてしまいました。歌の文句ではありませんが「人生とは不思議なものですね」とつくづく考えてしまいます。

残された時間を健康の維持に努めながら、楽しく過ごしていきたいと思っております。

感謝状

奥貫 四郎

平成十七年四月、県退職校長会に入会を許可され同石川支部の一員となりました。

本会の会計係を、故村越支部長さんから委嘱され、その後瀬瀬支部長さんにもご指導を頂き、適正な会計執行に努めて参りました。

故村上支部長さん、飯島支部長さんの下では副支部長として、微力ながら会の目的達成のために努力して参りました。特に印象に残っていることは、平成二十九年六月に実施しました第五十三回県公立学校退職校長会石川大会を、会員の皆様と共に滞りなく好評のうちに実施できたことです。

令和元年度の総会で支部長に選出され、本会の運営に責任を持つことになりました。コロナ禍の中での活動には大きな制約を受けました。大役を終え、西牧新支部長さんへとバトンを繋ぐことができました。

この度、感謝状を頂きましたのも皆様のご協力のお陰であり、心より感謝申し上げます。

車田政美先生を偲んで

大樂 宣和

車田先生のあまりにも急な訃報に接してから四ヶ月が過ぎようとしている。私が新任教頭として赴任した石川小で学校経営の在り方について、日々実践の中で懇切丁寧に教えて頂いた事が一番の思い出である。決して言葉が荒立てる事なく、常に穏やかなご指導だった。その教えが有り難く何度も何度も心で感謝したものである。全教職員に対しても柔らかい物腰の中にも強い信念を持たれ、

適切な指導をなされていた。私は誠実で明るく朗らか、そして紳士的な車田先生の人柄に教育者としてのあるべき姿に沢山学ばせて頂いた。石川小を退職された後は、玉川村教育長として村の教育充実発展のためご尽力なされた。私は教育長室を度々訪問し、教えを頂いた。生前の数々の教えに感謝の気持ちを添え、心よりご冥福を祈っています。

哀悼



内田利男先生を偲んで

高原 榮 征

行く河の流れは絶えずしてしかもとの水にあらず。よどみに浮かぶ泡沫はかつ消えかつ結びて久しく留まることなし。世の中にある人と栖とまたかくの如し。(方丈記) 四月十七日にご逝去を知り最初に浮かんだのがこの一節でした。その日のおよそ二ヶ月前の二月十九日が先生の九十歳の誕生日で福島大学同窓会から寿詞とお祝いをお届けに参上したばかりでしたから、

同時に、今から四十年ほど前、「荒れる中学校」が全国的に広まりその時代に校長をされ苦労なさったことが思い浮かびました。しかし泰然自若として事にあたられ、乗り越えられました。ご退職後もかつての同僚知人に対する思いは強く、会合などで会う度にその後の生活や生き方に気遣いをなさる方でした。ご冥福をお祈りします。(合掌)

新入会員あいさつ



馬場 哲明

令和三年度末をもって、石川町立沢田小学校の閉校と同時に、定年退職をいたしました。無事に教員生活を終えることができましたのは、諸先輩方のご指導や励まし、皆様方のご支援のお陰であると感謝いたします。

三十七年間にわたる教員生活のうち、その三分の二を石川地区で、その半分を石川町でお世話になりました。教頭・校長として、小学校で勤務させていただいたのも貴重な経験となりました。

退職後、再任用は希望せず、現在は石川町で不登校児童生徒のサポートや児童クラブで、毎日子どもたちに囲まれながら、仕事を続けさせていたただいております。これまでの経験を生かし、お世話になった石川で、少しでもお役に立てればと思います。これからは退職校長会の一員として、今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



岡崎 寛人

この度は、退職校長会への入会をお許し頂き、誠にありがとうございます。今後とも変わらぬご指導をよろしくお願いいたします。

私は、今年の三月末を持って、三十六年間の中学校教員生活を終えることになりました。長きにわたる教員生活を無事に終えることができたのは、諸先輩をはじめとする多くの皆様のご指導やご支援のおかげであると心より感謝申し上げます。

四月からは、民間企業の役員として勤務しておりますが、学校経営で身に付けたマネジメントの手法がいろいろと役立つことに驚いています。組織に目標を与え、職員一人一人に達成感と満足感を与えることについては、学校経営と何ら変わりありません。さらに、私たちが中学校で指導したことが、企業の中で役立つことがたくさんあることも大きな発見でした。今後とも、学校教育の益々の充実をお祈りしております。



郷 清隆

今年の三月末に、福島県立修明高等学校を最後に定年退職いたしました。校長として耶麻農二年、修明高校三年校長として勤務いたしました。特に母校の修明高校では令和元年度に創立十周年記念式典を挙行し、今年三月には残念ではあります、高校改革前期計画により鮫川校閉校式に立ち会いました。三十八年間にわたる教員生活を無事終えることができたのは、素直な生徒と熱意のある教職員、理解ある保護者や地域の方々、そして温かく見守っていただいた諸先輩の皆様からご指導や励ましの言葉をいただいたおかげです。心より感謝申し上げます。

この度、退職校長会石川支部に温かく迎え入れていただきましたが、機会をとらえ活動に参加してまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

この度、退職校長会石川支部に温かく迎え入れていただきましたが、機会をとらえ活動に参加してまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

寄稿II

「石川町の教育」について



石川町教育委員会教育長
小玉陽彦

「石川町の教育」について、本年度の教育委員会の基本目標並びに学校教育の新たな取り組みを紹介いたします。

石川町教育委員会では、「豊かな心と町民文化を育む町づくり」を基本目標とし、新しい時代や社会の変化の中で創造性を発揮し、互いに助け合い協力し合う心豊かな人材の育成を図っております。

また、誰もが生涯にわたって学び、生きがいを持って生活できるよう、生涯学習の充実と文化、芸術、スポーツの推進を図ると共に、地域の歴史、文化、自然の保護・活用を図り、郷土を愛する心の醸成を目指しております。

次に、学校教育の新たな取り組みを紹介致します。最初に今年度から長年の懸案でありました通級指導教室（情緒学級）が石川小学校に

設置されました。現在、石川小学校の児童九名、野木沢小学校の児童三名の計十二名の児童が在籍しており、週一時間、自立活動を中心に授業を行っております。特別な支援が必要な児童に対して適切な指導や支援を行うことで、インクルーシブ教育の充実と、誰一人取り残さない教育の実践を図っております。

次に、適応指導教室「キララルーム」を今年度初めて開設致しました。「モトガツコ」の放課後児童クラブの一室を教室とし、週三日の午前中に開設しております。不登校や不登校気味の児童生徒の教育相談や学習指導・支援を行い、情緒的な安定を図ることで、学びの保障や不登校が解消されることを期待しております。

また適応指導教室の利用者はおりませんが、不登校児童生徒及び保護者との面談を通して、積極的に活用してもらい、一人でも多くの児童生徒が学校復帰することを目指したいと考えております。

最後に外国語教育推進リーダーの配置です。小学校において外国語が教科となり、小学校五・六年生が英語を学習しています。それを専門に指

導する外国語教育推進リーダーが石川小学校に追加となりました。今年度は石川小学校と野木沢小学校の二校で英語の指導を行っています。町内の小学生がより専門的な英語の指導を受けることにより、英語の授業の充実や英語力の向上が期待されます。

以上、「石川町の教育」について紹介させていただきました。新型コロナウイルスの感染が収束しない中ではあります。今後も石川町の将来を担う大切な児童生徒が、心豊かでたくましく成長するよう学校教育の充実を図っていきたくと考えております。

結びになりますが、今回、このような寄稿の機会を与えていただき、石川町の教育を紹介させていただきましたことに感謝申し上げます。



福島県内コロナ感染者数の推移について

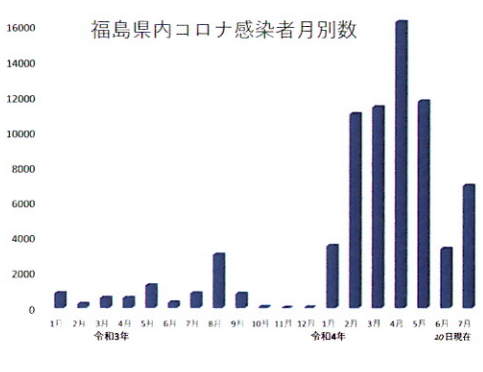
内田賢壽

今までの記録からコロナ感染者数について月別に集計してみました。

数値のみで見えていたものをグラフにして、令和三年に比べ令和四年が一段と増加していることが分かりました。令和三年八月が二千九百人で最も多かったのが令和四年四月には一万六千人に達しています。

六月に入り三千二百人と減る傾向を示していますが七月には二十日現在で七千人近くに達しています。

ワクチン接種も進み予防には万全の体制ができていますと確信したいところですが、まだまだ気をゆるめることはできない状況です。



雑感・編集後記

◆この所、危険な暑さが連日続き六月下旬だというのに梅雨が明けてしまいました。異常気象の原因はやはりラニーニャ現象の影響と考えられています。ラニーニャ現象が発生すると、夏の高気圧が発達しやすく日本全体が猛暑になる傾向になるといわれています。そのため夜になっても気温があまり下がらず寝苦しい日が続いています。

また電気料金や生活必需品などがすべて値上がりしているのにもかかわらず年金が下がりがり、生活がしづらくなってきました。これらは、突如今年の二月にはじまったロシアのウクライナ侵攻が原因で、物価が上がり続けているのも一理あるので、早く戦争が終わってほしいと願うばかりです。

◆今回の会報は、各受賞者の声、新会員の声を中心に発行いたしました。また、石川町の教育の現状紹介で寄稿くださった石川町教育長小玉陽彦様はじめ多くの方々より原稿のご執筆をいただき心から感謝申し上げます。

小針良仁記